

### 目的

和服の着用性能は、裏地とこれと見合、に表地との間の物性、特に摩擦特性に関係している。そのためにまず和服用裏地の物性実験を行ない、つぎにこの裏地を用いて和服を製作し、その着用感と物性試験とを比較した。

### 方法

試料は、表地用と裏地用に夫々10種類の布を用いた。

実験方法は実験室試験機の傾斜平面試験棒及びウィヤフスタン型曲面摩擦試験機によって測定した。

着用感の試験は、45名の女性を被験者としてアンケート形式で調査した。

### 結果

得られた結果はつぎの通りである。

1) 両試験する布の平面及び曲面試験機によって測定された摩擦係数の値は同じ0.2~0.5の範囲にわたっている。裏地と表地の間の摩擦特性は人体の状況によって生ずる布の曲率とは関係のないことがわかった。

2) 45名の女性被験者の主観的判定によれば、絹裏地とボリエステル裏地の組み合わせは非常に良い心地であった。単発糸はレーヨン裏地とレーヨン7割はアセートの裏地の組み合わせは着心地は正しくなかった。